

# 一般財団法人国土技術研究センター 第32回 技術研究発表会

2018年7月6日(金) イイノホールにて

## 第32回 技術研究発表会について

一般財団法人 国土技術研究センターは、国民生活の向上や国土の適正管理及び有効利用の実現を目指して幅広い調査・研究を行うことで、国土交通行政を先導・補完することを目的として、昭和48(1973)年に設立された政策提言集団である。この調査・研究の成果を、広く国民の皆様還元することは一般財団法人の役割として極めて重要であることから、公益事業の一環として、昭和62年から毎年「技術研究発表会」を開催している。

第32回目となる今回は、まず「日本と東京のこれから～2050年を見据えたインフラ整備のあり方」と題して、市川宏雄先生(明治大学名誉教授、帝京大学特任教授、森記念財団業務理事)に特別講演をいただく。

引き続き、当センター職員が、河川、道路、住宅・都市・地域、技術・調達の4部門から6つの発表を行う。河川部門では、水防法の改正により義務化された「地下街等における避難確保・

浸水防止対策の取り組み」についての研究や、平成27年の9月の鬼怒川破堤氾濫などの被災経験から得られた教訓をもとに、被災時の情報発信等について提案する「堤防被災の危機管理の経験と教訓／提案」を、また道路部門では、最先端の道路管理手法として期待される「ICT・AI技術を活用した道路管理高度化の取り組み」の紹介及び、道路を車だけでなく“人”が活用する上での制度等に注目して議論した「未来への投資 新たな価値・文化空間としての「みち」の創出～道路空間委員会 提言とりまとめ報告～」を、さらに、住宅・都市・地域部門では、近年、都市・地域再生に期待されるエリアマネジメントについて研究した「公共空間の活用・維持管理と連動したエリアマネジメントの現状と課題」を、そして技術・調達部門では、昨年に引き続き実施している研究に試行工事の結果を得てさらに踏み込んだ「工事記録映像の活用に関する研究」を発表する。

今後、さらに研究を深化させ、当センターの国土交通行政の先導・補完という役割を着実に果たしていく所存である。

(野田 徹 業務執行理事)

